

第2回 草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会 会議録

- 日時：令和2年10月6日（火）14時30分～16時30分
- 場所：フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室
- 出席委員：武田座長、棚橋副座長、石垣委員、梅村委員、田村委員、橋本委員、花澤委員、岡井委員、伊藤委員、足立委員、有村委員、野口委員、新谷委員、長谷部委員
- 欠席委員：笠井委員
- 傍聴者：1名
- オブザーバー：昭和株式会社3名
- 事務局：総合政策部草津未来研究所 堀田理事、本村調整員、中瀬参事、坂居専門員
総合政策部兼都市計画部 一浦副部長

1. 開 会

【事務局】

皆様、こんにちは。定刻になりましたので、只今より、第2回草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会を開催させていただきます。

まず、草津市総合政策部理事で草津未来研究所副所長の堀田が御挨拶申し上げます。

【堀田理事】

あらためまして、皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、第2回草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今回は南草津エリアまちづくり推進ビジョンの策定にあたりましての目的や背景の共有化と、現状や課題に対しての御意見を頂戴したところでございまして、そのいただきました御意見を資料に反映させていただきましたうえで、本日は課題整理を行い、南草津エリアまちづくり推進ビジョンの基本方針やゾーニングについての御意見を頂戴したいと考えております。

ところで、前回の8月3日から本日までの間に立命館大学情報理工学部が2024年4月にいばらきキャンパスへ移転されるというニュースや、この10月19日から南草津駅周辺で交通対策社会実験が始まるなど、新しい動きもございました。また、新快速が運行されましてこの10月1日で50周年という時代を感じさせる出来事もございました。

このような中、本市におきまして、産学公民の連携のもと、南草津エリアの未来を見据えた将来ビジョンを描いていくことが益々重要になってきております。

本日は限られた時間ではございますが、委員の皆様にはそれぞれのお立場からぜひとも忌憚のない御意見を頂戴したいと存じますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】

それでは、次に配布資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の報告)

なお、本日の傍聴者は1名でございますので、よろしくお願いいたします。

本日、公募委員の笠井委員については御欠席でございます。

ここで、前回御欠席され、本日が初めての出席となられます西日本旅客鉄道株式会社京都支社地域共生室長の野口明様から一言御挨拶をお願いしたいと思います。

(野口委員から挨拶)

ありがとうございます。

それでは、ここからは座長に進行をお願いいたします。

2. 報 告

【座長】

それでは、次第に沿いまして進めてまいりたいと存じます。

次第の「2. 報告」につきまして、事務局からお願いします。

【事務局】

それでは、前回の懇話会で宿題となっております項目が2点ございました。

1点目は老上西学区の高齢化率ですが、現在の高齢化率は20.8%であり、草津市全体では22.2%です。草津市版地域再生計画と都市計画マスタープランで2040年の推計値に差があった件については、それぞれ2010年と2015年と基準年が異なること、特別養護老人ホームなどが影響したことなどから、草津市版地域再生計画では高齢化率が39.2%となっていたが、本計画では都市計画マスタープランの推計である28.0%を採用することとします

2点目は草津市に住む立命館大学生の数ですが、立命館大学に通う学生のうち草津市における居住率は、約15,000人中約7,300人であり約49%となっています。

【座長】

ありがとうございました。

委員の皆様から今の説明について、何か御質問等はございますでしょうか。

3. 議 題

(1) 南草津エリアの課題について（論点1）

【座長】

それでは、議題（1）の南草津エリアまちづくり推進ビジョン策定方針について事務局から説明をお願いします。

（事務局から資料の説明）

【副座長】

課題1の低未利用地はどこを想定していますか。

【事務局】

山手幹線沿道、追分あたりを想定しています。

【事務局】

大学関係からの意見では、地域の方に立命館大学に来てほしいという御意見がありました。これに関して御意見はありませんでしょうか。

【A 委員】

立命館大学ではどれだけの施設を一般市民に開放されているのでしょうか。運動部では子どもスクールが実施されているようですが。

【事務局】

大学施設は学生の教育の場が基本ですが、一部紹介しますとグラウンドでの地域の運動会やびわこ講座、スポーツ健康コモンズもあります。スポーツ施設や知的財産にあたるものは一般の方にも活用できると思います。

【座長】

スポーツ健康コモンズとして体育館やプールを正門前に設置されています。駐車場が遠いですが、駐車場と体育館をつなぐ通りでは緑化やベンチ等を設置し、学生や地域の方が快適に過ごせる空間づくりに取り組んでいます。

【B 委員】

イベントや地域住民の勉強の場など大学側の企画として大学施設を地域住民が利用させてもらうことはよいと思いますが、大学は権威ある場所であり、地域住民が気軽に行ける場所とすることはどうかと思います。また、駐車場も遠く車やバスで行きづらいと思います。

もっと、南草津駅にピントをあわせ、周辺に地元の土産や野菜、米が購入できる場所の

設置を、フェリエの活用を含め検討するべきだと思います。

【事務局】

農産物に関しては、地域まちづくりセンターにおいて朝市を実施されているところもあります。

滋賀県ではJAが大きく2つの組織に合併し他市町の農産物の取り扱いもできるようになり、協力していく仕組みづくりが必要であると考えます。

【C 委員】

滋賀医科大学としては、地域住民の方には医療人の育成や学びの場として大学に来ていただきたいと考えています。

例えば、地域住民の方には模擬患者として協力いただきたいと思っています。

【副座長】

学園祭等のイベントではどこまでを対象に開催案内を出されていますか。

【C 委員】

学園祭に関してはどなたでも参加可能ですが、学生の活動の発表や展示が主であり、参加者は大学関係者が大半といった印象があります。

【D 委員】

障がいをもった人でも施設や公共交通機関が利用でき、住みやすいまちづくりを進めることが課題だと思います。

【事務局】

草津市バリアフリー基本構想を策定し、取り組みを進めています。

また、課題③においてウォーカブルなまちづくりを記載しており、障がい者も含め誰もが利用しやすい環境づくりが課題と認識しています。

特別養護老人ホームなどの福祉施設は市街化調整区域においても立地できますが、高齢者施設やサービス付き高齢者住宅などは駅前がよいといった意見もあり、今後、調整していく必要があります。

【B 委員】

南草津駅西口エリアの道路においては地元で管理されていますが、東口エリアはあまり統一した管理がなされていないと感じます。

また、高齢者等に配慮した座れるスペースの確保や、バスを利用する多くの学生や

会社員が通るため、緑化や植樹を進めてほしいと思います。

【事務局】

東口エリアの土地区画整理事業時は高度利用を優先させた土地利用がなされました。一方、西口エリアでは東口エリアでの成果を受け、高さを抑え、公園等の空間を確保した土地利用となり、当時の役員の方を中心に今でも草木の手入れなどのボランティアを実施されている状況です。

駅前はまだの顔となることから、潤いなどの雰囲気づくりは重要であると認識しています。

また、ベンチなどの設置は、スペースや費用対効果を考慮しつつも、本ビジョンに位置づけていきたいと考えています。

【E 委員】

JR西日本としても、各駅の駅前広場については行政とともに協力して検討しています。

また、広場はまだの玄関口であるというシンボリックな視点に加え、バリアフリーの整備を進めていくことを各行政と勉強しています。

JR東日本では神奈川県川崎市に「コトニアガーデン新川崎」というエリアがあり、このエリアには商業施設、高齢者施設、保育施設、賃貸住宅があり、真ん中の広場を拠点に子どもからお年寄りまでが1つのエリアで生活でき、交流できるような空間づくりをしており、今後のまちづくりの参考になるのではないかと考えております。

課題④における「公共交通の充実」については、は鉄道会社としてもありがたく感じます。

【A 委員】

ウォーカブルなまちづくりに向け高齢者や子どもたちの安全を考慮すると、歩行者、自転車だけが通行できる歩車分離をすることも考えられます。

自家用車を運転できない方でも南草津駅を利用しやすいように、路線バスやまめバス等の公共交通の充実、コンパクトな路線検討が必要だと思えます。

【F 委員】

パナソニックでは新型コロナウイルスの影響により在宅勤務が増えており、会社としても経費メリットも出始めており推奨していますが、在宅勤務の就労環境に満足していない社員もおり、最寄り駅におけるコワーキングスペースやシェアオフィスの需要は高まるのではないのでしょうか。

まちづくりにおいては駅周辺にどれだけの人を滞留させるかがポイントであり、例えば、駅周辺に子どもを預ける場所等があれば、女性が駅に滞留するようになるのではないかと思います。

また、外国人を呼び込み、利用しやすくするための多様性についても、南草津駅を中心に進めていってはどうでしょうか。

【B 委員】

地域のボランティアなどは Zoom 等を活用できる部分も多いため、行政から利用方法の指導を行ってほしい。

【F 委員】

駅が学生にとって通過点としか機能していないことが問題であり、駅に学生を滞留させること、駅前を学生のビジョンや価値観を発信の場として活用することはよいことだと思います。

(2) 基本方針（案）およびゾーニング（案）について（論点2）

【座長】

それでは、議題（2）の南草津エリアの現況と課題について事務局から説明をお願いします。

（事務局から資料の説明）

【G 委員】

拠点形成することで、拠点以外のエリアが衰退してしまうことを危惧しています。地域まちづくりセンターに求める機能を教えてください。

【事務局】

南草津エリアにおいては、老朽化が進んだ老上、玉川、矢倉の地域まちづくりセンターの建て替えを検討しており、交流や滞在ができるように農家レストランやコミュニティカフェの併設、防災拠点機能などを地域の意向も踏まえ検討してはどうかと考えています。

【B 委員】

メインの幹線道路は民間のバス事業者が運行し、不足しているところをまめバスが補っている状況ですが、一度白紙に戻し、東は南草津駅から大学や高速道路、南は総合病院やイオンなどを循環するバス路線の再構築に取り組んでほしいと思います。

また、高齢者にもわかりやすく使いやすいルート設定や運行本数を検討してほしいと

思います。

【H 委員】

南草津エリアの農地がだんだん宅地化され、新規住民も増えています。大学生だけでなく、若年層などの住民意見も取り入れてほしいと思います。

【B 委員】

リモート授業、リモートワークはコスト面でメリットが出始め、新型コロナウイルスの影響を受け、今後も導入する動きが加速すると思いますが、大学において集まって学ぶことに意味があり、まちがキャンパスになる、まちに育てられるという視点はこれからも重要だと考えます。

【副座長】

若いファミリー層が南草津エリアに増えても、その子どもたちが成長し、都心部で一人暮らしを始めるようになると、高齢者だけが残ることになります。次世代も住めるような、商業、医療などの地域拠点性を充実していくことが大切だと考えます。

【I 委員】

道路整備よりもLRTやBRTなどの公共交通の充実について記載してはどうでしょうか。一方で、歩行者にとって魅力的な空間づくりも重要です。

また、将来の駅周辺の高齢者の急速な増加に備え、子どもと高齢者の交流は昔からよいとされているので、相互に交流できる場を設けるべきだと思います。

大学生が地域で活躍することが必要であり、自発的な活動を助成するような制度を導入すべきだと考えています。

【J 委員】

南草津エリアは自家用車が多く、渋滞が頻繁に起こっています。

自家用車を使わなくても駅に行けるような公共交通網の整備、また、バスの運賃については利用しやすい金額設定を検討してほしいと思います。

【I 委員】

MaaSのような一定料金で公共交通機関を乗り放題にできるようなサービスを導入できれば、住んでいる地域に関係なくすべての住民を公平にカバーできる福祉的な視点も取り入れられると考えます。

また、バスの運行時間については、JRに乗り継ぎしやすいように調整することが必要だと思います。

【J 委員】

立命館大学は地域の防災拠点（避難所）として周辺住民を受け入れてほしいと思います。

4. 閉会

【座長】

議題は以上になります。

皆様、議事の進行に御協力ありがとうございました。

事務局にお返しします。

【事務局】

皆様、貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

懇話会委員の皆様の御意見が、ビジョンや課題のこのあたりに自分の意見が入っていると云える愛着心が持てる計画にしていきたいと思いますので、今後も引き続き積極的な御参加を賜りたいと思います。本日はありがとうございました。